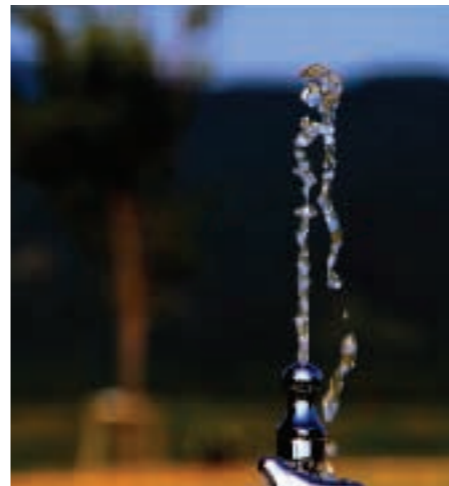


和sヤマトの「和」は、Water & Airの頭文字のWAを表していますが、ここで少し、水についての世情の雑話で、くつろいでみたいと思います。

テレビでアフリカの動物の生態を見ていると、草食獣が水辺に集り、姿勢を低くして水を飲んでいく光景が目に入りました。しかしこの時、彼らは肉食獣の攻撃を受け易い最も危険な状態にあり、水を飲むのも命がけでした。その昔、アフリカに人類の祖先が生まれた頃、樹上から地上に降り立った猿人も外敵と戦える牙はなく、野を疾駆する脚もない状態でした。そのため、或種の小型猿人などには、飲用している湖沼が減水して水辺が狭まるにつれ、外敵と接する機会が多くなり、肉食獣に襲われて、遂には絶滅してしまった種属もあったようです。実際に、頭蓋頂部に肉食獣の牙の穴跡が二個並んであいている猿人の頭骨の化石が、水辺の跡から発見されたりしています。



蛇口から水が当たり前に出る有り難さを見直したい

幸いなことに、現代に生きる我々は、水辺でワニや肉食獣に襲われることもなく、蛇口から自由に水が飲める幸福な状態にあります。

ところで、およそ六十年前の終戦後間もない頃、南洋諸島の漁民が海で遭難し、日本の船に救助されて日本に降り立ったことがありました。送還される日、土産に何が欲しいと聞かれた時に、彼らは水道の蛇口を指差して、あれをくれと言ったそうです。当時の彼らには、蛇口に至るまでの水道の仕組みなど、解かるはずありません。蛇口とは椰子の幹にでもつけておけば、自由に何時でも清浄な水が飲める宝物に見えたのでしよう。しかしこれは単なる笑い話ではなく、水道についての何かを忘れてきている現代人にとって、誠に反省すべき話ではないかと思えます。

ライバル(ライバル)と云う言葉は誰でも知っていますが、その語源が河(River、リバー)にあることは、あまり知られていません。この言葉は「同じ河を利用する人」、すなわち競争相手や対抗者を意味しており、利水関係と人間関係との深刻さを物語っています。農耕民族国家の日本では、昔は水田の引水量から「水喧嘩」なるものがありました。灌漑用水は農作物の生育状態を左右し、人の生命維持にも大きく関わってきたからです。人類は勿論、他の生物も、淡水の根源である雨水を頼りに生きてきましたが、降雨は自然現象であり、人力では如何ともし難いので、専ら神頼みの形になるほか仕方ありませんでした。降雨をひたすらに神に祈る現われとして、神社や神棚に掲げる注連縄(しめなわ)は雷雲を象り、これに下げる紙垂(シデ)・幣束(はひ)は稲光りを意



注連縄(しめなわ)は、雷雲をかたどっている

味しています。こうしたことから、夏の雷雨に豊かな稔りを賭けた、祖先の切実な願いが理解できるような気がします。

余談ですが、神に関する文字には「示偏」(シメスヘン)がついていますが、これは神に生贄をささげる形を意味しています。豆(トウ)と称するタカツキ台をかたどった「工」の上に、肉を載せ、その両側から血が垂れている形が「示」であり、転じて神を意味するようになったといわれています。

そして「神」なる字形は水田の落雷を象ったもので、古代人は雷が天地に轟くのを怖れて、天の神であると考えていたようです。また、「社」(ヤシロ)は土地の神であり、さらにこれを祀った建物までを示すようになりました。ひいては、村人が社に集り農事の相談をしてきたことから、人間の組織集団を「社」と呼ぶようになったようです。

Spring ~
early Summer
2011

春~初夏号

和's YAMATO

わす やまと



NHK大河ドラマ 江~姫たちの戦国~

- 琵琶湖をめぐる戦国の動乱 一近江・長浜という所一
- 江の母・市は柴田勝家と結婚し自害
- 江は十一歳で佐治一成と結婚し離縁

お客様紹介 ●株式会社ナルス様 ●学校法人日本大学様

株式会社ヤマトPR誌
和's YAMATO 2011 Spring ~ early Summer / 第9号 2011年6月 発行(春~初夏号) (季刊・年4回発行)
発行 / 株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118
TEL 027-290-1891 FAX 027-290-1896 URL www.yamato-se.co.jp



支店 / 東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎
営業所 / 軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、栃木市、湘南、東松山、新潟、長野、渋川、川口、東北、多摩、滋賀
関連会社 / 大和メンテナンス株式会社 株式会社埼玉ヤマト 株式会社ヤマト・イズミテクノス ヤマト・イー・アール株式会社 大和ビジネスサービス株式会社 株式会社荒井興業

姉川の戦い

辛くも危難をかわした信長は、元亀元(二五七〇)年六月、浅井長政討伐のため、長浜の小谷城に向かった。浅井・朝倉軍は織田軍を小谷城の手前である姉川で迎え討ち、壮絶な戦いが繰り広げられ、ついに浅井・朝倉軍は退却。しかし、信長は小谷城を攻めきれず、織田軍は兵を引いた。その頃、足利義昭は着々と信長包囲網をめぐらし、石山本願寺、甲斐の武田信玄らを味方に引き入れていた。信玄は信長に対抗するかのようになり、元龜三(二五七二)年一〇月に上洛の途に着き、同年十二月、遠江(とおとうみ)の三方原(みかたがはら)で徳川軍に圧勝し、京へと駒を進める。ところが、翌年四月、信玄の突然の死で武田軍は退却し、またしても信長は危機を乗り越える。



姉川古戦場の表示板 取材時は一面雪に覆われていた

浅井氏の滅亡

足利義昭は元龜四(二五七三)年七月、信長に追放され、室町幕府は滅亡。その余勢をかって、信長は朝倉義景を攻撃、朝倉氏も滅亡する。

天正元(二五七三)年八月、信長の浅井攻めが激しさを増し、浅井軍は次々と砦を失い、浅井長政は本丸に孤立した。そして、羽柴秀吉の総攻撃を受けて力尽き、長政は城内で自刃。妻で信長の美妹・市と、茶々、初、江の三姉妹は小谷城を脱出、信長の庇護を受け生き延びることとなる。

長政は落城直前、嫡男の万福丸を越前へと逃すが、織田軍に捕らえられ関が原で磔にされた。この残忍な行為により、市、茶々、初は信長に嫌悪の情を持つことになるが、江は赤子であったため、その事実を知られずに育った。

主君に背き武力で権力を手中に収め、勝者がの上がる下克上の戦国時代。裏切り、駆け引き、戦(いくさ)と常に緊張状態にあった時代に生まれるも、自分にできることは何かを考え、ひたすら前向きに日々を生き抜いた姉たち。今、戦国の世を振り返り、現代にも通じるひたむきな生き方を感じ取ってみたい。

江く姫たちの戦国く

2011年NHK大河ドラマ「江―姫たちの戦国―」は、戦国の動乱期に天下統一という偉業に取り組んだ信長、秀吉、家康の活躍の陰で、人生を翻弄された、江を始めとする浅井三姉妹の生涯を描いた物語である。

浅井三姉妹

三女 江

江が生まれたのは天正元(二五七三)年の小谷城落城の年で、父・長政の顔を見たことは無いまま、父を死に追いやった伯父・信長に引き取られる。その後、江は三姉妹は北の庄城では母・市を、本能寺の変では信長を失ったため、秀吉の保護の下に育つ。

江の初婚相手は佐治一成であったが、秀吉に離縁させられ、羽柴秀勝と再婚するが死別。さらに徳川秀忠と三度目の結婚をし、二代将軍秀忠夫人となる。長男の家光は三代将軍に、五女の和子(まさこ)は後水尾天皇に輿入れし、浅井の血筋を天皇家と将軍家に残している。



お江肖像画(養源院蔵) 発掘された遺骨によると、身長140センチほどの小柄な女性であったという

長女 茶々

秀吉の側室となり、大阪城で世継ぎの秀頼を生む。秀吉の没後、元和元(二六一五)年、大阪夏の陣で、大阪城落城とともに秀頼と自刃。

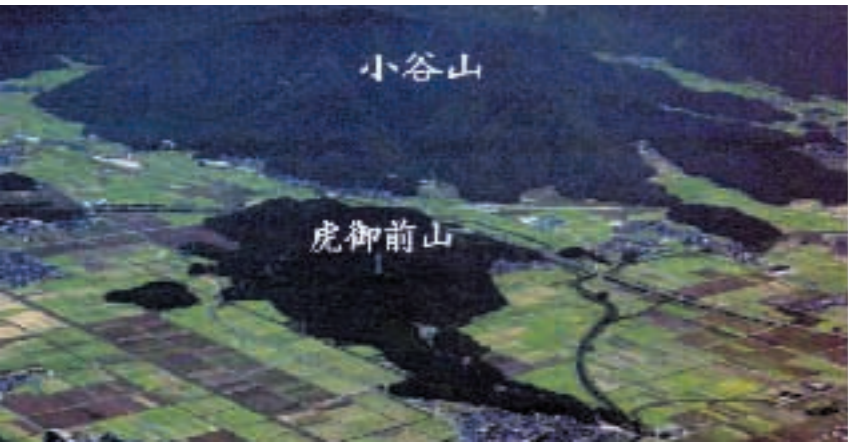
次女 初

京極高次に嫁ぎ、夫の没後は出家した。姉の茶々(豊臣側)と妹の江(徳川側)が対立した大阪の陣では、両者の仲介役として大きな役割を果たす。

小谷城跡

浅井氏の居城である小谷城は、滋賀県東北部に位置する、小谷山の山頂、標高五〇〇メートルの位置にあり、琵琶湖が一望でき、敵の動きを監視するのに最適な地に築城されている。北陸路と中仙道の要所をおさえ、海上交通路として活用されていた琵琶湖の港へも近く、重要な位置にあった。

落城は天正元(二五七三)年九月。小谷城を攻略した豊臣秀吉は、浅井氏遺領のうち十二万石相当の小谷城を拝領し入城、初めて城持ち大名となり、この出世が天下をとる足がかりとなった。



小谷山と虎御前山(長浜市文化財保護センター資料より)



長浜城(秀吉が築いた最初の城) 復元された城の姿は昭和58年に長浜歴史博物館として建造されたもの



現在の小谷山と虎御前山(湖北町観光案内所資料より)



冬の竹生島 国宝の宝蔵寺唐門を始め貴重な文化財が残っている

小谷城攻略の前線基地 虎御前山

虎御前山(とらごぜんやま)は標高二〇メートル、小谷城から五〇〇メートル余りの距離に位置し、四方の見通しがよく独立した丘陵で、前線基地を築くのに適している。山の尾根には古墳が点在しており、信長はそれらを巧みに生かして砦を構築、山全体に家臣を配置し、平地に続く道路を幅六メートル、長さ五キロメートルにわたって拡張、敵の襲来に備えるという周到ぶりであった。

小谷城攻めでは木下秀吉、柴田勝家、堀秀政、丹羽長秀ら信長家臣団が活躍した。

江の姫たちの戦国

ワンポイント解説 2

実の父・浅井長政を戦で失った市の娘・茶々、初、江の三姉妹。母の再婚で、義理の父・柴田勝家の越前の城へと移り、つかの間の平穏な日々を過ごす。しかし、またも乱世の戦により、数奇な運命に翻弄されることとなった。

江の母・市は柴田勝家と結婚し自害

織田信長による浅井長政への攻撃によって、長政の妻・市と三人の娘である茶々、初、江は、浅井家の小谷城から脱出し、皮肉にも三姉妹にとっては父の仇であるとともに伯父にあたる信長の庇護のもとで日々を送ることになる。

浅井家滅亡という悲運に見舞われたものの、市は戦国の覇者・信長の実妹であるため、三姉妹には信長の姪として大過のない生涯が約束されたかと思えたが、果たしても過酷な運命が待ち受けていた。

天正十(一五八二)年六月、信長が京都・本能寺にて家臣の明智光秀に討たれるという大事件が起こる。本能寺の変が起こった時、中国地方にいた羽柴秀吉は急ぎ京都に引き返し、明智光秀を討ち取った。その功績により、秀吉は信長の後継者として存在感を高めたが、織田家の一家臣に過ぎない秀吉が家督を継ぐことは不可能であった。そのため秀吉は、信長とともに本能寺で討ち死にした長男・信忠(のぶただ)の子であるわずか三歳の三法師(さんぼ



清洲城址に立つ織田信長像
桶狭間の戦いに出陣する前の凛々しい顔

うし)に家督を継がせ、秀吉自らはその後見人としての権勢を持つと画策した。

こうした動きを察知した信長の次男・信雄(のぶかつ)、三男・信孝(のぶたか)は、家督を継ぐのは当然自分たちであり、秀吉が天下を手中にしようとするのを阻止しようと考えた。そこで、信孝は秀吉に対抗するため、織田家の筆頭家臣・柴田勝家を頼る。勝家もまた秀吉の天下取りの野望を見逃すわけにはいかず、その対応に苦慮していたところに、信孝からある秘策を持ちかけられた。それは、浅井家から出戻って三姉妹と静かに暮らして

いた市を、勝家の妻にしようものだった。

市は、この要請を承諾したが、その理由は、市も信孝や勝家同様、秀吉が台頭するのを快く思っていなかったせいである。また、市にとって秀吉は、自分の夫を殺した憎い仇でもあった。

信長に討たれた浅井長政には、市ではない女性との間に万福丸(まんぶくまる)と万寿丸(まんじゅまる)という二人の男の子があったが、市は実子同然に愛情を注ぎ、彼らを育てていた。信長は浅井攻めの時、万福丸を捕らえたが、実際に手を下し申刺ししたのは秀吉であった。たとえ信長の命令で逆らえなかったにせよ、市は秀吉の酷い行為に長く恨みを抱いていた。だからこそ、天下をほしいままにしようとする秀吉を阻止するため、勝家の元に嫁ぐ決断をしたのかもしれない。

市と勝家は織田信孝の居城である岐阜城で挙式をあげ、天正十(一五八二)年暮れ、茶々、初、江の三姉妹とともに勝家の領国・越前に向かった。雪深い越前で、戦の心配の無い平穏な日々を願った市と三姉妹であったが、その望みはすぐに打ち砕かれることとなった。

天正十(一五八二)年の年が明けると、秀吉は伊勢の滝川(たきがわ)を攻める。勝家は益と反秀吉の同盟を結んでいたので、一益に呼応して拳兵、雪の残る越前を南下し、秀吉軍と戦った。はじ

めは善戦した勝家軍であったが、同年四月の賤ヶ岳(しがたけ)の戦いで敗れ、越前の居城・北の庄城に戻り体制を立て直すとした。

しかし、北の庄城はほどなく秀吉の大軍に取り囲まれ、勝家は敗北を覚悟する。勝家は、市に城から逃れるように勧めたが、市は夫と死を共にする道を選んだ。ちょうど十年前の、小谷城落城の時にも、市は夫の浅井長政から城を出るようにならね、その命に従った。それは長政との間に生まれた三姉妹を育てるためであり、姫たちの成長を見届けたこのたびの戦では、夫とともに深く落命することを望んだ。

乱世の時代においては、女たちの身には幾度も過酷な運命が押し寄せ、決して平穏な日々は望めない。実家の織田家もついに滅亡の道を歩んでいる…。そんな諦めが市の心には去来していたのかもしれない。



豊臣秀吉画像
(大河ドラマ特別展絵巻書より)

江

ゆかりの地
福井市街

北の庄城址公園と柴田神社
織田信長は、一向一揆を壊滅させた直後の天正3(1575)年8月に、越前四万石を柴田勝家に与えた。勝家は足羽川(あすわがわ)と吉野川との合流点に北の庄城を構築したが、わずか8年で秀吉軍に攻め落とされた。現在の柴田神社付近が本丸と推定されている。北の庄城址公園内には勝家、お市の方、茶々・初、江の三姉妹の銅像が建てられている。

自性院(お市の方の菩提寺)
自性院(じしょういん お市の方の菩提寺)にあるお市の方の石碑。同寺は奈良時代に紫雲山仏光寺として開山し、お市の方の院号「自性院微妙浄法大師」の「自性院」を賜り改称した。

西光寺(勝家と市の墓)
西光寺にある勝家と市の墓。夫妻が北の庄で自害する際に、3人の娘を住職に託したとする説がある。勝家62歳、市37歳の時であった。

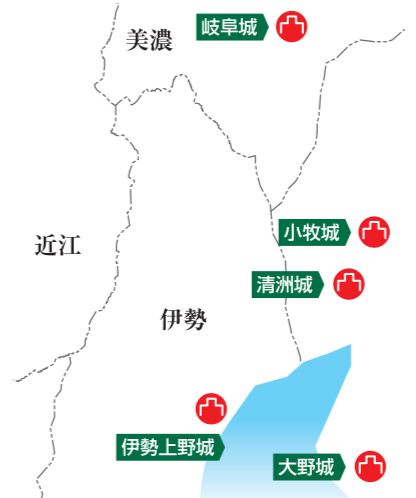
藤島神社(説明は10ページ)



小牧城
信長は美濃攻めのために本拠地を清洲から小牧山に移した。永禄6(1563)年に移転し4年後の永禄10(1566)年に斎藤氏を滅亡させると、小牧山城はその役目を終えた。その間、市もこの城に住んでいたと思われる。小牧山城が廃城になってから17年後の天正12(1584)に、家康はこの場所を改修し、秀吉と小牧・長久手(ながくて)の戦いに臨んだ。



清洲城
信長が弘治元(1555)年から約10年間にわたって拠点とした城で、信長の妹・市もこの城で過ごしたことがある。信長の死後に、織田家の後継者を決める清洲会議の舞台となった。信長以降の歴代城主には、織田信雄(のぶかつ)、羽柴秀次(はしばひでつぐ)、福島正則(ふくしまさのり)がなり、慶長十五(1610)年に家康が名古屋へと遷府すると、城下町ごと名古屋に移転した。



大野城(現在の建物は城を復元したものではない)
愛知県常滑市の最北端にある大野町は、伊勢湾の重要な港町として中世から栄え、その街を見下ろすように尾張大野城がある。大野城は知多郡の守護であった一色氏によって築城され、後に家臣で伊勢湾の制海権を握った佐治氏が支配し、その居城となった。江が最初に嫁いだ佐治一成は四代目の城主。



岐阜城
永禄10(1566)に信長は宿敵斎藤道三を破り、岐阜城(稲葉山城)を奪い、居城とした。天正元(1573)年の浅井氏滅亡後に、市と三姉妹がしばらく移り住んでいたのがこの信長の居城・岐阜城であった。翌年の正月の宴の席で、信長は浅井久政・長政父子と、朝倉義景の嫡孫(どくろ)に漆を塗り金粉をかけて家臣に披露し、それらを盃にして酒宴を開いたという。



岐阜城天守閣から長良川がよく見える

江

ゆかりの地
福井市周辺

福井は、「江」たち三姉妹が少女時代に父「柴田勝家」と母「お市の方」と過ごした思い出深い土地である。福井市周辺は「江」ゆかりの名所が点在しています。

丸岡城
天守閣は国内に現存する日本最古のもの。初代城主は柴田勝家の養子で甥にあたる柴田勝豊。

永平寺
永平寺町

忠直卿御墓所
第二代福井藩主、松平忠直の正室は江の娘・勝姫

剣神社
織田家発祥の地

福井城址
関ヶ原の合戦後、結城秀康によって北の庄城が改築され、のち「福井」と改められた。越前藩主歴代の居城。現在、本丸跡には県庁が置かれている。

一乗谷朝倉氏遺跡
織田信長により天正元(1573)年に滅ぼされた朝倉氏は、約一世紀にわたって繁栄を極め、一乗谷(いちじょうだに)に城下町を形成した。発掘調査で大規模な館や庭園が発見され、当時の街並みも復元されている。

凡例
 高速自動車道
 一般国道自動車専用道路
 国道・主要道路
 JR
 私鉄



柴田勝家公像(柴田神社)
賤ヶ岳の合戦で秀吉に裏返った前田利家に対し、勝家はお家存続のためにはいたしかたないと理解を示した、という逸話がある。



柴田勝家とお市の像(西光寺柴田勝家公資料館)
義を貫く勝家と、その生き方に共鳴したお市の方が仲良く鎮座している。

江は十一歳で佐治一成と結婚し離縁



江の画像(柴田神社案内版)
江の名前は小督(おごう)、江与(えよ)など系図によって諸説がある。

茶々、初、江の母・市の死後、秀吉は自身の野望のための政略結婚の駒とするべく、三姉妹の仮親におさまった。なぜ秀吉が三姉妹の養父となったのかには諸説あるが、勝家が自刃直前に、義理の娘たちを秀吉の陣営に送り届けたとする説が有力である。また、戦国一の美女の誉れ高い市に思いを寄せていた秀吉が、市に最も似ている茶々を我が物にしようとして、三姉妹を受け入れたとも言われている。いずれにせよ、茶々を側室に望んだため、二人の妹の初と江は政略結婚の駒となった。

江の嫁入り先を探していた秀吉は、尾張の知多半島で水軍を掌握していた佐治氏に目をつける。当時同盟関係にあった信長の次男・信雄(のぶかつ)に仲介を頼み、秀吉は江を、まだ十二歳という幼さで佐治一成と結婚させる。

江の結婚相手・佐治一成の母は、市とは

異母姉妹にあたる、信長の妹・お犬の方である。彼女は水軍を支配下に置きたいと企てた信長により、一成の父・佐治信方と政略結婚させられ、一成を生んだ。佐治信方が伊勢長島の一向「探制庄」の戦闘で討死したため、お犬は信長によって織田家に連れ戻される。その後再び政略の道具として細川昭元と再婚させられ、本能寺の変の二ヵ月後に他界。一成は父の死の後、母をも失うこととなった。十一歳の江と十五歳の一成はともに両親を亡くしており、織田家の一族という安心感もあって、仲の良い夫婦となる。幼い江は一成に嫁いだ後、しばらくは穏やかな日々を送った。

しかし、結婚直後に秀吉と織田信雄(のぶかつ)とが敵対する。一成は恩義のある信雄に味方し、水軍を率いて応戦。信雄は徳川家康と同盟し、小牧・長久手で戦い秀吉軍を劣勢に追いやるが戦いは決着がつかず、両陣営とも兵を引き上げた。この戦いで織田信雄軍と同盟を結んでいた家康軍は、尾張の居城へと帰路につく途中、豪雨で佐屋川(さやがわ)を渡ることができずに立ち往生する。しかし、一成が船を提供し、そのおかげで家康は無事に川を渡ることができた。この一件が秀吉の耳に入ると、秀吉はその行いに不快感を募らせ、佐治一成の成敗に乗り出す。養女の江を嫁に

出したのに、敵の家康軍に味方をするのは自身への背信行為と立腹したのである。怒り心頭の秀吉は信雄と和睦して関白の座につき、家康を封じ込め、信雄に「成の居城・大野城を攻撃しよう命じる。攻撃に先立ち、秀吉は養女の江を大阪城に連れ戻すために、「姉の茶々が大病を患って危篤」という虚偽の報を携えた使者を送る。急ぎ駆けつけた江をそのまま大阪城にかくまい、一成と強引に離縁させてしまふ。

天正十四(一五八六)年、信雄は天下人の秀吉に逆らうことができず、やむなく大野城を攻め、江の夫であった一成は伊勢に落ちのびて、佐治氏は滅亡の憂き目を見ることとなった。

江の母・市は時代に翻弄されながらも、常に誇りを失わず、筋を通した生き方を娘たちに示した。名門・浅井家と織田家双方の血を引く三姉妹の末娘・江は、亡き母との固い絆を抛り所に、過酷な運命にも臆さず戦国乱世と対峙し、夫との悲しい別れの後も、さらなる激動の人生を歩むこととなる。



大野城址に近接する佐治神社に鎮座している佐治一成の石像



市の画像(柴田神社案内版)
二度にわたって敵に追い詰められ、北の庄城の落城の際、勝家の筋を通す生き方を肯定するように運命を共にする。



お市の像とお市の水
城内にあった井戸をお市の水と命名

年号	西暦	年齢(江)	事項
永禄10年	1567		織田信長の妹・市、兄の命により近江国小谷城主・浅井長政と政略結婚。織田家と浅井家は同盟を結ぶ。
永禄12年	1569		長女・茶々(淀殿)が生まれる。
永禄13年~	1570		次女・初が生まれる。
元亀元年			元亀元年4月下旬、信長の越前朝倉攻めにあたり、朝倉家と縁の深かった長政は信長に離反。 6/28姉川の戦いが起こる。
元亀2年	1571		8月、信長、小谷城を攻め、木之本・余呉を焼く。
元亀3年	1572		1/2信長、姉川と朝妻の間の往還を封鎖。 3月、信長、小谷城を攻め、木之本・余呉を焼く。 7/23信長、越前国境から木之本を攻撃。 7/24信長、草野谷・大吉寺・竹生島を攻撃する。 8月、信長、虎御前山に本陣を置く。
元亀4年~	1573	1	三女・江が生まれる。
天正元年			天正元年8/20朝倉義景、一乗谷から大野に逃れ自刃。 8月末、信長、小谷城に総攻撃をかける。 9/1父・長政、小谷城で自刃。浅井家滅亡。 江ら三姉妹と母・市は、信長の弟で伊勢上野城主の信包に預けられる。
天正10年	1582	10	6/2本能寺の変で信長横死。 6/27信長の三男・信孝のすすめで、市は柴田勝家に再嫁。 三姉妹も勝家の居城、越前・北ノ庄城に移る。
天正11年	1583	11	4/20賤ヶ岳の戦いで勝家、秀吉に敗れる。 4/24市は勝家とともに自刃。三姉妹は秀吉にひきとられる。
天正12年	1584	12	江、尾張国大野城主・佐治一成に嫁ぐ。しかし、この年のうちに離縁となり、大坂城に戻る。
天正13年	1585	13	7/11羽柴秀吉、関白となり、豊臣姓を与えられる。
天正15年	1587	15	初、京極高次に嫁ぐ。
天正16年	1588	16	淀、豊臣秀吉の側室となる。
天正17年	1589	17	5/27淀、秀吉の子・鶴松を産む。
天正18年	1590	18	小田原征伐で石垣山城に淀を呼び寄せる。 秀吉が天下統一。
天正19年	1591	19	2/5淀と秀吉の子・鶴松病死。 2/28秀吉、甥の秀次に関白職を譲り、太閤となる。
天正20年~ 文禄元年	1592	20	文禄元年2月、江、秀吉の甥・秀勝に嫁ぐ。 9/9秀勝は出陣先の朝鮮で病死。同年、江と秀勝の長女・完子生まれる。
文禄2年	1593	21	8/3淀、秀吉の子・秀頼を産む。



長女 茶々

次女 初

三女 江

三姉妹の像

越前・福井の群馬県にゆかりの人と場所

新田義貞公

福井県は、新田義貞公が戦死した場所である。義貞公は元弘三(三三三)年に鎌倉幕府を滅ぼし、その後南北朝の戦いに深く関与した歴史の中心人物で、源氏嫡流の至誠の武将として讃えられている。明治天皇は新田義貞公に正二位を追贈している。新田義貞公の戦死後、遺骸は現在の福井市の称念寺に運ばれた。

新田義貞公墓所(称念寺)

藤島神社(福井市)



天保八(一八三七)年に新田義貞公五百回忌に福井藩主松平家が建立した高さ約2.6メートルの五輪石塔。

新田義貞公をご祭神とする神社。南北朝の忠臣新田義貞公は、清和源氏の末流で、八幡太郎義家から十代目にあたり、代々群馬県の新田に居を構えていた。南北朝の動乱時代、延元三(一三三八)年に足利軍と奮戦中にこの地で戦死した。

濃尾地震と福井大震災

歴史の舞台にも巨大地震が起こっていた

今回の取材先の福井と岐阜は、過去に大地震が発生した場所だ。濃尾地震は、明治二十四(一八九二)年10月28日、岐阜県根尾村(現・本巣市)で発生した。マグニチュード8.0と世界でも最大級の内陸型直下型地震根尾谷の水鳥地区では、最大で6メートルに及ぶ地面のズレが生じた。人口の集中している岐阜市内では倒壊家屋が相次ぎ、全戸数の6割以上にあたる3700戸が倒壊し、火災により全戸数の3割の2100戸が焼失する大災害であった。

福井地震は昭和二十三年(一九四八)年6月28日に発生、震源は福井郡丸岡町(現・坂井市丸岡町丸岡城の付近)で、戦後復興間もない福井市を直撃したマグニチュード7.1の直下型地震。建物の全壊率は60%、地震発生当時は戦後日本最大の死者・行方不明者3769人の被害であった。

平成二十二年(二〇一〇)年に発生した東日本大震災は戦後最大の地震災害となったが、過去に発生した地震の多さから、日本が地震列島であることを再認識させられた。



根尾谷断層から2キロほど行くと、日本三大桜の根尾(ねお)の薄墨桜がある。国の天然記念物。



総延長80キロメートルにわたり、最大縦ずれ6メートル、最大左横ずれ8メートルの変位が生じた。



福井大震災のプレートとともに、建物が倒壊した様子を描いた銅版



福井城址のお堀端に設置されている福井大震災の発生を記録するプレート



根尾谷地震断層観察館内の地下観察館では、断層を約10メートルまで掘り下げており、真上から地層を観察できる。

Text/Naoya Kinoshita Photo/Keisuke Suzuki 参考文献/浅井三姉妹を歩く(長浜市長浜城歴史博物館編集)

環境配慮型 床暖房システム — ナルス上越インター店 — 新潟県上越市



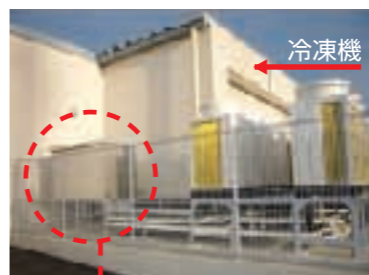
快適なショッピング環境を追求しています



レジまわりでも床暖房で快適な作業環境が実現



床暖房の効果が出ている店内



排熱回収ユニット[(株)ヤマト製]

原信ナルスホールディングス(株)様は、生鮮食品を主体としたスーパーマーケットチェーンを新潟県全域で展開しており、同ホールディングスグループの(株)ナルス様は新潟県上越地区を中心としたスーパーマーケットです。地域のお客様を大切にし、お客様のニーズに合わせた商品の販売やサービスの提供に努めています。

ナルス上越インター店では、環境配慮型の床暖房システムを導入、省エネとランニングコストの低減、心地よい店内環境づくりを進めています。

**環境に配慮した店づくりに貢献
省エネルギー・ランニングコスト低減**

通常、大気に放出している冷凍機の排熱を回収して床暖房を行うので、床暖房のエネルギー・電気料金はほとんどかかりません。(ポンプの搬送動力のみ)

「ショッピング環境の向上」
心地よい店内環境

ショーケースエリア

冬場はもちろんの事、薄着になる夏場においてもショーケース前の通路が寒くありません。

「作業環境の向上」

レジ・サービスカウンター廻りにも床暖房をしているため、足元が冷え込む冬場においても寒くありません。

レジエリア



(株)ナルス代表取締役社長の山崎軍太郎様

(株)ナルス代表取締役社長の山崎軍太郎様に、床暖房を導入してのご感想を伺いました。山崎社長は、「冬場、店内に入った時に寒さを感じる事が無く、床暖房の効果があることがわかります。お客様にも大変ご好評をいただいています」と高く評価してくださいました。また、(株)ナルス店舗開発担当の飯田俊朗様は、床暖房の「コスト削減効果などについて次にお話ししてくださいました。」

「ナルス上越インター店は、省エネを意識した店舗で、床暖房システムはその一環として導入しました。この店舗は同規模の他店に比べると電気代が安くなっているのを実感しています。床暖房を入れても、電気代が安くなっているわけですから、排熱回収の効果が出ていると思います。GHPが入っている店舗は、燃料代に加えてメンテナンス費用が月間数十万円かかるときもありませんので、コスト面の差は歴然ですね。」

床暖房の無い店舗に比べると、店内を歩くことや暖かいですね。梅雨時になると薄着で店内に入られるお客様から、ショーケース周辺は冷気が溜まってひんやりする、という

た声を聞くので、今年のその時期には快適な環境でお買い物をしていただきたいですね。床暖房を導入して4ヶ月が経過し、短期的には、導入後1年を経て、電気代削減の実績を同規模の他店と比較する予定です。

中期的には、GHPのメンテナンス費用はEHPに比べて大きいですが、メンテナンス費用の削減効果を見極めたいですし、長期的にはGHPからEHPに切り替えて、GHPの過大な費用負担を軽減していく計画です。

電気代の削減にとどまらず、当社はISO14001の認証を取得していますし、改正省エネ法への対応など、地球環境への配慮に対するお客様の見る目を意識しています。お客様のメリットを第一に、社会的な環境配慮への要請に応える店づくりを心がけながら、トータルコストの削減を考慮しています。」

施設概要	
施設名称	ナルス上越インター店
所在地	新潟県上越市大字三田新田129-24
建物概要	鉄骨造、平屋建、延床面積2998m ²
用途	店舗 食品スーパー
竣工	平成22年9月
設計・施工者	株式会社万代設計 北野建設株式会社(建築工事) 株式会社ヤマト(床暖房設備工事) 福島工業株式会社(ショーケース・冷蔵設備工事) 株式会社ミタカ(冷蔵設備工事)

システム概要	
排熱回収冷凍機	4系統(冷媒 R410A)
床暖房エリア	ショーケース前 レジ・サービスカウンター廻り
	約330m ²

上越の名所・春日山城

春日山城は戦国の名将・上杉謙信公の城として有名で、石垣の代わりに自然の起伏を生かした空堀・土塁を持つ戦国時代の山城の特徴を保っています。



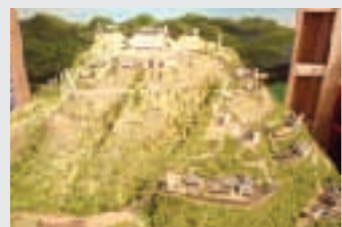
「越後の龍」の異名を持つ、上杉謙信の像
春日山城の参道脇に建つ



春日山城のふもとにある「謙信公出陣 御前清水」
龍の口から清水があふれ出ており、謙信が出陣の際に立ち寄ったという。



春日山神社
山形県米沢市の上杉神社から分霊された謙信公を祭神とし、1901年(明治35年)に創建される。
Photo: Keisuke Suzuki・Naoya Kinoshita
Text: Naoya Kinoshita



春日山城のジオラマ
春日山城の山麓には、総延長1.2kmにも及ぶ堀(堅物堀)と土塁をめぐらしてある。春日山城跡は、空堀や土塁、曲輪跡など往時の名残りを良くとどめ、戦国大名にふさわしい大城郭跡として、国の史跡に指定されている。



春日山城三の丸跡
春日山城は標高180mの鉢ヶ峰山頂の本丸から山裾まで、山容を巧みに利用して二の丸・三の丸や屋敷群を連続して構築。石垣を用いず、自然の起伏を活かした空堀や土塁で防御を固めている。

お客様紹介 ● 学校法人日本大学様

日本大学三島高等学校 中学校新校舎が竣工



外観

千葉支店施工の日本大学三島高等学校・中学校の新校舎が竣工しました。当社は空調・給排水衛生工事を施工しました。現場は、校舎・グラウンドに接していたため、学校構内の安全と環境に十分配慮しながら工事が進められ、搬入時間の制限や安全通路の確保をはじめ、騒音・振動対策にも配慮しました。工程管理では、授業や学校行事に支障がないよう綿密に打ち合わせを行い、品質・効率・安全を満たす工事を心がけました。また、何よりもこの3年間の工事期間中、無事故・無災害で工事を遂行でき、施主様の長年の夢をかなえつつ無事に引渡しができましたことを、とても嬉しく思います。ここまでこられたのは、長きに渡りご尽力頂きました中野課長をはじめ、関係各社・協力業者の皆様への努力の賜物です。紙面をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。
(千葉支店 鈴木記)



モニュメント「つなぐ」と仁藤校長先生

工事担当者 千葉支店工事部工事課課長代理 鈴木章浩さん

同主事補 中野秀明さん

営業担当者 首都圏営業本部営業開発一部部長 鈴木良三さん

工事概要

工事件名 日本大学三島高等学校・中学校校舎新築工事

工事場所 静岡県三島市文教町2-31-145

建築主 学校法人 日本大学

敷地面積 8万6,830㎡

延床面積 1万7,091㎡

工期 2008年2月15日～2011年10月31日



学問の拠点となる図書館



ゆったりとした談話スペース



エレベーターは3基設置



清潔感のあるトイレ

日本大学三島高等学校・中学校校長 仁藤芳治様より、コメントをいただきましたので紹介します。

すべては生徒のために——意欲を引き出す教育



お陰様をもちまして、このたび本校50周年を記念しての新校舎が立派に落成しました。ご理解とご協力をいただきました多方面の方々にこの場をおかりして厚くお礼申し上げます。この校舎での新たな教育環境は、生徒にとって大切な意味を持ちます。

本校の教育目標は「意欲を育てる教育、意欲を引き出す教育」です。さらに、地域に親しまれ、安心して通える明るく楽しい学校を標榜しています。

このたび落成した新校舎二階の図書室は、学校の中心であり、いわば学問の心臓部です。生徒諸君には、図書館の活用により好奇心や興味を深め、さらに生き生きとした学校生活を送ってほしいと考えています。

最新の校舎は「すべては生徒のために」。その実現への第一歩です。明るく広々と

たゆとりのある空間は、本校生徒が「誇り」を抱いて青春時代を過ごすのに絶好の教育環境です。生徒たちは思春期の一日を八時間以上学校内で過ごします。私も「明るく楽しい学校」は素晴らしい環境によって育つと実感しています。

本校の校訓は「自由と規律」です。自らの考えと意欲によって、目標や夢を描き、実践していくという自由の精神を大切にしています。同時に、学校や社会の決まりの中で、自分自身を生かすための枠組みを理解し、義務として実践するようにも教えています。

また、生徒たちには、夢と目標を大きく掲げ、感動や充実感にあふれた毎日を送ってもらいたいと願っています。日々の努力、高い志向性、向上心、明確な目標を持ち、挑戦する気概こそが、充実した人生を送る要諦です。

正しい判断力、正しい選択力を培う学校として、これからも日々前進してまいります。



開放感のある談話スペース



茶道を学ぶ和室



音楽と映像のスタジオ編集室



生物実験室



調理実習室